

理事長・学長記者会見

1 黒田 理事長 挨拶

2 堤 学長 挨拶

3 発表項目

(1) グローバル教育の取組

(2) 教育DXの取組

(3) 「熊本ウォーターポジティブ・アクション」の始動

4 質疑応答

熊本県立大学と開南大學は、学生の交換留学プログラムの推進を目的に、令和7年3月31日に学生交流協定を締結しました。

1. 経緯

開南大學と本学は、平成23年度(2011年度)に学術交流協定を締結。当初は日本語教育の実習先として交流を開始し、近年は同大学主催の夏期研修(中国語/英語、台湾文化)に本学から毎年数人が参加。

令和5年(2023年)10月、同大学の学長が本学を訪問された際「TSMCに関連して、熊本と台湾の交流を深めていきたい。将来的に交換留学を希望する」旨の発言があり検討を開始し、本学教員による現地視察や意見交換を実施。受入環境整備についても、日本語授業の充実等を進めていく方向で学内調整を行い、この度の学生交流協定の締結となった。



2. 大学概要

- (1) 大学名: 開南大學 (Kainan University)
- (2) 所在地: 台湾桃園市
- (3) 設置: 2000年(前身の開南商工高等学校は1917年創設)
- (4) 学生数: 4,700人
- (5) 学部構成: 商学部、人文社会学部、法学部、情報学部、観光運輸学部、健康保健管理学部



3. 今後の交流計画

相互に2人以内の学生を授業料不徴収で受け入れ、単位互換の対象とする。
なお、本学は、2025年9月からの派遣に向けて留学希望者の募集を開始。

(参考) 本学の国際交流の推進状況

1 協定校の状況 (R7.4 現在)

7か国15校と交流協定を締結

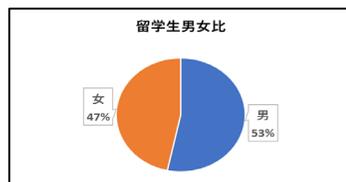
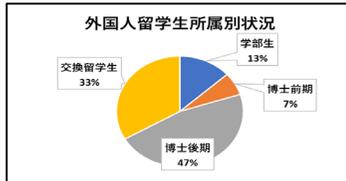
学生交流協定校 3	 モンタナ州立大学 ヒリングス校 (米国)	 祥明大学校 (韓国)	 開南大学 (台湾)				
学術交流協定校 12	 モンタナ州立 大学ボーズマ ン校 ・チャタム大学 ・モンタナ大学	 海洋大学校 ・ソウル市立大 学校	 カセサート大 学 ・ウライラック 大学	 台北科技大 学 ・中原大学	 広西大学	 ブラウウィジャ ヤ大学	 デラサール大 学CIESOL

2 外国人留学生数 (R7.4現在)

本学では、韓国・インドネシアの留学生が多い。また、大学院生が5割、交換留学生（特別聴講学生）が3割となっており、男女比では、ほぼ半々の状況。

国別・区分別外国人留学生の状況

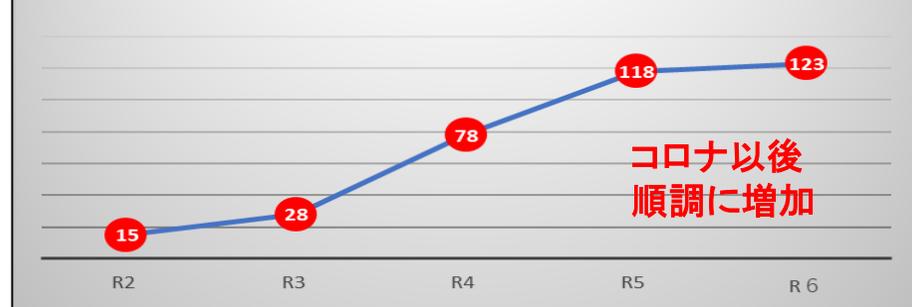
出身地域	学部生	大学院生	研究生	科目等履修生	特別聴講学生	計
米国					2	2
韓国	2				3	5
中国		2				2
がナ		2				2
インドネシア		4				4
計	2	8	0	0	5	15



3 海外留学・研修等学生数 (R6年度)

本学の海外留学・研修等学生数は14か国123名
アジアが8割・北米が1割。国別では、タイ、台湾、韓国が多い。

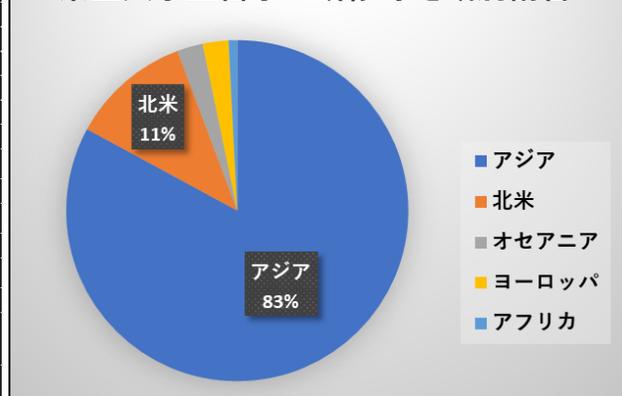
海外留学研修等への派遣学生数の推移



国地域別派遣学生数の状況

地域	国	学生数
アジア	韓国	23
	フィリピン	13
	台湾	27
	タイ	32
	インドネシア	3
	カンボジア	3
北米	アメリカ	4
	カナダ	10
オセアニア	ニュージーランド	1
	オーストラリア	2
ヨーロッパ	アイルランド	2
	イギリス	1
アフリカ	ウガンダ	1
計		123

県立大学生留学・研修等地域別割合



(1) グローバル教育の取組

もやいすとグローバル育成プログラムや英語学習用e-learningシステムの充実

主な取組

- ◆ 令和7年度から、もやいすとグローバル育成プログラム※の3年次開講科目「グローバル実践活動」において、
熊本県と連携した課題解決型研修（於：シンガポール）や海外の企業等におけるインターンシップ（於：マレーシア、ベトナム、オーストラリア）を行います。



シンガポール

	①シンガポールにおける課題解決型研修	②マレーシア、ベトナムでのインターンシップ	③オーストラリアでのインターンシップ	④学生の希望に応じた国・地域
内容	熊本県と連携した課題解決型研修	マレーシア：企業インターンシップ ベトナム：新入社員コース、プロジェクトコース	海外でスタッフの一人として、チームの一員として実践的な業務の経験	学生自身が自分のキャリアビジョン等に応じた実践活動を企画
期間	10日間程度	4週間	4週間 ※インターンシップ開始前に語学研修オプションあり	活動によって異なる (45時間以上)

※グローバルな視点を持ち、地域課題に柔軟に対応できる人材の育成を目指すプログラム。2年次では英語で地域や世界を学び、3年次では英語をツールとして海外でインターンシップなどの実践活動を行います。

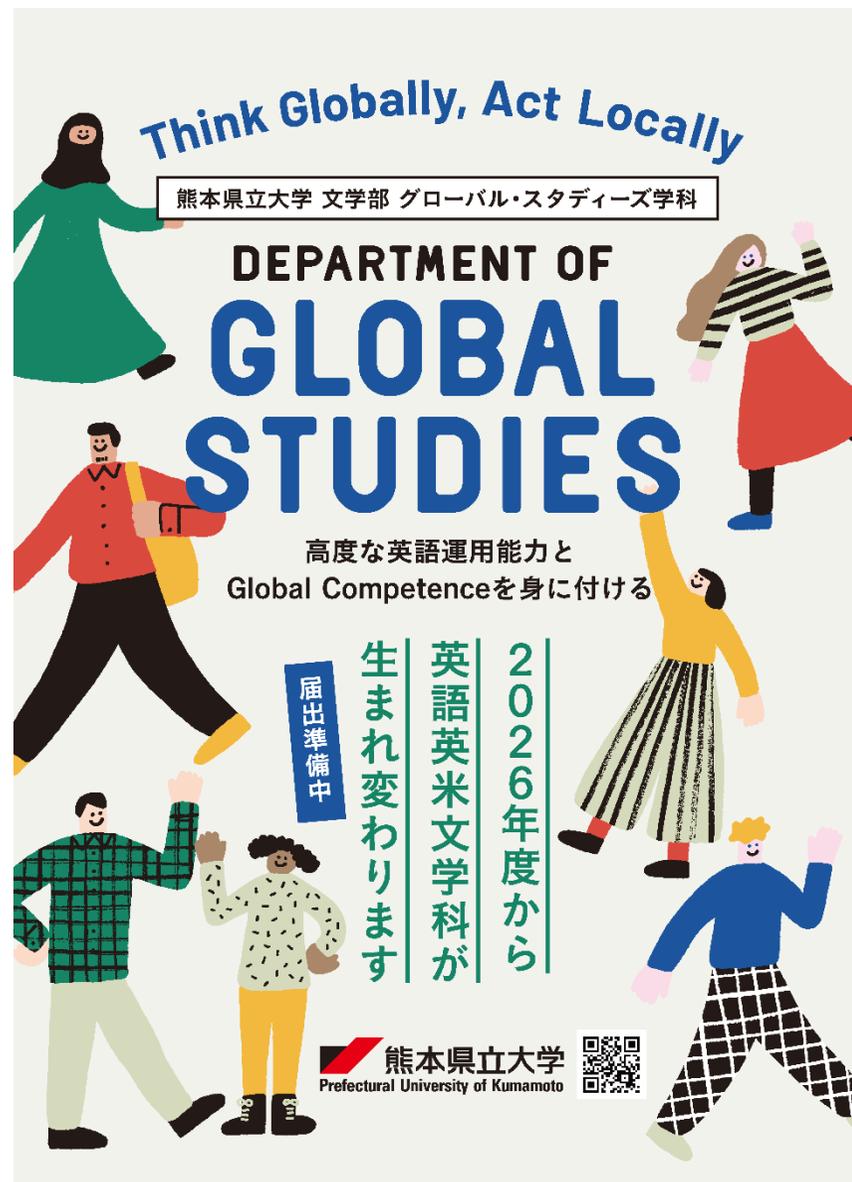
- ◆ 令和7年度から、**新しい英語学習用e-learningシステムを導入**します（**全学部の1,2年生対象**）。総合的な英語力をバランスよく強化しながら、苦手分野を克服することで自信をつけていきます。令和5年度から実施しているTOEIC®IP（団体特別試験）の2年生全員受験に向け、TOEIC®のスコアアップも目指すことができます。

(1) グローバル教育の取組

令和8年度、グローバル・スタディーズ学科スタート!

主な取組

- ◆ 文学部英語英米文学科は **グローバル・スタディーズ学科**として新たにスタートします (届出準備中)。
- ◆ 新学科では、**高度な英語運用能力と Global Competence**※を身に付けた人材の育成を目指します。
※グローバル社会において、多様な価値観や文化の中で他者と協働し、より良い社会の実現に貢献する力
- ◆ デラサール大学 (フィリピン) のオンライン留学や「もやいすとグローバル育成プログラム」における海外インターンシップ、学内での国際交流などを通し、**英語を使う実践の場を用意**
- ◆ 令和7年度から新たに英語のネイティブスピーカー1名着任 (専門: 文化人類学)。



Think Globally, Act Locally

熊本県立大学 文学部 グローバル・スタディーズ学科

DEPARTMENT OF
GLOBAL STUDIES

高度な英語運用能力と
Global Competenceを身に付ける

届出準備中

生まれ変わります

英語英米文学科が

2026年度から

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto



(2) 教育DXの取組

学修状況ダッシュボードの独自開発について

熊本県立大学ではDXグランドデザインに基づく大学DXに取り組んでいます。今回、教育DX推進の一環として、学生の学修状況を可視化し、教育の質向上に貢献する「学修状況ダッシュボード」を**大学独自**に開発しました。

教育DX推進体制図



① 成績情報

The '成績情報' dashboard shows '成績データ' (Grade Data) with filters for '年度' (Year) and '学期' (Semester). It displays '履修成績情報' (Course Completion Performance Information) as a table with columns for '年度' (Year), '学期' (Semester), '授業名' (Course Name), and '評価' (Evaluation). Below the table is a '成績評価の割合' (Grade Evaluation Ratio) donut chart showing the distribution of grades: 1.秀 (12.5%), 2.優 (37.5%), 3.良 (43.8%), and 4.可.

② GPA

The 'GPA' dashboard displays 'あなたのGPAデータ' (Your GPA Data) with a 'GPA表' (GPA Table) showing '前年' (Previous Year) and '今年' (This Year) data for '前期' (First Semester) and '後期' (Second Semester). Below the table is a 'GPA / 累積 GPA の分布' (GPA / Cumulative GPA Distribution) line graph showing the distribution of GPA scores over time. The current GPA is 3.82.

※GPA (Grade Point Average)
各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値

③ PROGテスト

The 'PROGテスト' dashboard shows 'あなたの結果と平均点の比較' (Your Results and Average Score Comparison). It includes a radar chart comparing 'あなたの結果' (Your Results) with '平均点' (Average Score) across various skills: リテラシー (Literacy), コミュニケーション (Communication), 問題解決力 (Problem Solving), 創造力 (Creativity), 協働能力 (Collaboration), and 自己管理能力 (Self-management). Below the chart is a 'コンピテンシー (詳細)' (Competency (Details)) section with another radar chart showing 'あなたの結果' (Your Results) and '平均点' (Average Score) for specific competencies like 読解力 (Reading Comprehension), 聴解力 (Listening Comprehension), etc.

※PROG (Progress Report On Generic skills) テスト
社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを測定

熊本県立大学 DXグランドデザイン

新たな領域への調和

大学の理念や目的を実現するため、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに、本学では様々な特色ある取組を展開してきた。

2020年より猛威を振った新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対し、人類は社会の枠組みをドラスティックに変容させ、順応できることを示した。本学も例外ではない。それに不可欠であったのはデジタルという領域による変革である。仮に感染症収束により人々の暮らしが元に戻るうとも、多様な活動をスピーディ・効果的・効率的に行うためにデジタルの力を活用する流れは、もはや元に戻ることはない。本学もデジタルに調和し、理念に基づく教育研究活動を新たな水準に昇華する必然性と対峙している。

情報に息吹を

すべての情報にはライフサイクルがあり、我々はその見直しを迫られている。デジタルでないペーパー上に作られ書庫に眠り続ける情報、システム化されつつも狭い利用範囲にとどまる情報。そうした情報が人々の活動に寄り添い、さらに情報同士が連携し始め、新たな価値を生み出すとすれば大変意義があるのではないか。

DX (Digital Transformation) とは、単に情報をデジタル化したり、システムを導入したりすることにとどまらない。本学が推進するDXにおいては、情報のライフサイクルにおける「5つのA」の改善に取り組み、情報価値の向上を図る。

- Availability **入手性**
- Accumulation **蓄積**
- Alignment **連携**
- Analysis **分析**
- Application **活用**

なお、DXの中心となる概念としてデータウェアハウス(DWH: Data Warehouse)を活用する。様々な情報の蓄積の場となり分析・活用の中心となる。

人々の活動に実りを

デジタル化の純粋な効果として、非効率性が排除され、本来取り組むべき教育研究活動に注力できるようになる。

情報の役割は、活動を豊かにすることにある。本学が推進するDXではその原点を見据え、向上した情報価値により、教育研究活動に実りをもたらすことを目的とする。

従来バラバラに存在した各システムデータがDWHを中心に他システムと連携し、ある属性に分類される学生の成績の傾向を分析し支援に活用するといった、高次の情報利用を目指す。

DXの全体概念図 Concept of our DX

理念・目的・スローガンの達成

データウェアハウスを中心に、情報の価値向上・ライフサイクルの高度化を支えるプラットフォームを整備。新時代の「知の共有」「学びの姿勢の可視化」「多様化する学びへの対応」を実現。またバーチャルキャンパスを推進し、地域住民や学外の研究者ともシームレスな協働を実現。



Grand Design of PUK's Digital Transformation

設備・情報基盤 On-Campus Platform

(3) 「熊本ウォーターポジティブ・アクション」の始動

- ◆緑の流域治水研究室を設置【R3.4月】(R7.4月～共創の流域治水研究室)
JST「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」地域共創分野 (本格型)
に採択【R3.10月】
- ◆雨庭の研究及び整備の推進 (雨庭パートナーシップの立ち上げなど)
- ◆熊本地域での雨庭などのグリーンインフラ導入による水循環保全を推進
⇒「熊本ウォーターポジティブ・アクション」の始動【R7.3月】



「熊本ウォーターポジティブ・アクション」始動を宣言した6団体の代表ら

「熊本ウォーターポジティブ・アクション」始動宣言

熊本の地下水は、私たちの暮らしや産業、そして豊かな自然環境を支える貴重な資源です。

しかし、地域の産業・経済の発展とともに、地下水の涵養域が減少するなど、健全な水循環とそれを支える豊かな自然環境の喪失が懸念されています。

この課題に対し、熊本県立大学、熊本大学、肥後銀行、サントリーホールディングス、日本政策投資銀行、MS&AD インシュアランスグループホールディングスは産学金協働の「熊本ウォーターポジティブ・アクション」を始動します。

このアクションは、それぞれが地下水保全等に取り組んできた実績に基づき、協働して熊本地域でのグリーンインフラ導入による水循環保全を推進します。

また、6組織だけでなく、多くの主体が参加できる仕組みを構築します。

私たちは、このアクションを通じて、健全な水循環を維持し、熊本の地下水を未来へと引き継ぐために、流域の「ウォーターポジティブ」を目指すことをここに宣言します。

そして、地域の皆さまとともに、この取組みを広げ、豊かな市民生活と地域経済を支える「水の国くまもと」のさらなる発展に貢献します。

2025年3月20日

6組織を代表し、熊本県立大学 理事長 黒田忠広

熊本ウォーターポジティブ 仕組みの概要(目指す姿)

